

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400832		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 発寒		
所在地	札幌市西区発寒2条2丁目3番20号		
自己評価作成日	平成24年2月22日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◆私たちグループホームが力を入れている点はホームにこもることなく、できるだけ外へ出ることです。思いついたら、車イスの方でもすぐに出かけられる行動力があります。また、地域との交流も定着して、老人クラブの定例会には毎月5~6名参加し、散歩しているといつも地域の方から声をかけられます。また、幼稚園バスの停留所として場を提供したり、散歩の時は火ばさみをもって出かけ、ゴミ拾いをするなど地域貢献にも心掛けています。

さらに、利用者同士の仲間意識があり、和があることです。「和」を保つために、職員は個別支援と同時に利用者同士の関係性の構築のための支援も行っています。「笑い」が免疫力を高めると言われていますが、各ユニットはいつも笑顔や笑い声が絶えず、ここ数年インフルエンザや風邪が蔓延するようなことはありません。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400832&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400832&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅から徒歩圏の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。共用空間は明るく家庭的で、壁には利用者の習字や貼り絵の作品、行事での写真、紙芝居や季節の装飾などが、たくさん飾られています。居間の他にもソファや椅子を配置して、寛げる場所を作っており、トイレや風呂も使いやすく造られています。運営推進会議は、町内会役員や有識者、多数の家族が参加し、各回テーマが設定され、有意義に開催しています。その他に定期的に家族会もあり、家族の意見や要望を聞き、ホームの運営に反映しています。サービス面では、個別の外出や馴染みの関係の継続、医療面やターミナルケア、各種書類の整備や家族との情報共有などの面を充実させています。職員同士のコミュニケーションも良く、内部研修なども実施され、教育が行き届いています。利用者の生活面では、行事での外出や地域の老人クラブへの参加、ホーム内での楽しみごとなどが、明るく賑やかに過ごしています。地域住民の方々とも良好な関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日、朝のミーティングで理念を唱和し、共有していたが、中断している。毎月のカンファレンスでは理念に基づき、より深いケアを実践できるよう時間をかけ話し合いをしている。	法人理念と、職員が考えたホーム独自の理念があり、どちらにも地域との関係を重視する文言を入れ、地域密着型の理念として確立しています。理念は共用部分や事務室に掲示し、申し送り時に唱和し、職員全員で共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ捨てや散歩の時などご近所の方にあいさつや立ち話などを行っている。老人クラブの定例会に毎月参加したり、地域の川の清掃など町内会行事にも積極的に参加している。昨年からは地域の役に立てるよう、幼稚園バスの停留所として場所を提供している。	利用者が町内会総会や交流会に参加しています。利用者のうち数名が老人クラブに所属し、毎月の定例会に出席して昼食やゲームを楽しんでいます。幼稚園児に歌や手話を披露して頂いたり、近所の住民の方が、差し入れを持ってきて頂くこともあります。また、ホーム前を幼稚園バスの停留所に使って頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても、「たくさんできることがある」ということで、毎年近隣の小学校、中学校に日頃コツコツと縫った雑巾を数十枚寄贈している。また、利用者の運動も兼ねて、ゴミ拾い道具を持参し、地域清掃に努めながら散歩している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの様子や取り組みを報告している。例えば、地震対策の意見として、「机の下に潜り込む練習を日頃からしてはどうか」などあり、レクリエーションを兼ねて実践したりしている。	会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長や民生委員、多数の家族、有識者、警察署や消防署など、充実したメンバーとなっています。防災や交通事故、利用者の行動などをテーマ設定し、意見交換しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は年3回、「札幌市管理者連絡会議」に出席している。困った時などは区の担当者やメールや電話で相談したり、協力関係にある。	運営推進会議に地域包括支援センター職員や消防署、警察署の参加を頂いており、管理者会議でも行政関係者と情報交換しています。区の依頼により、介護予防「すこやかクラブ」の講師を引き受けたこともあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護記録に身体拘束についての具体的な行為がわかるように資料を綴っており、毎回見ることで理解できるようにしている。主任会議における身体拘束廃止委員会で毎月身体拘束の有無について検討している。毎年、数名「身体拘束の研修会」に出席し、ユニットで報告し、スタッフの意識を高めている。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記した資料を使って勉強会をしています。身体拘束防止に関する外部研修を受講し、その後報告会も行っています。玄関は夜間のみ施錠していますが、日中は自由に出入りができます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、数名虐待防止の研修会に出席している。ユニットごとに報告し、スタッフの意識を高めている。虐待の前の「不適切なケア」をなくすよう、日々スタッフ同士が注意し合えるような仲間作りやストレスを溜めないようなチームケアに取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方が一名いる。事例を通して制度について学んでいる。制度が必要な事例があれば、活用できる。 権利擁護に関する研修会にも出席している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、家族と十分話し合い、不安や疑問が残らないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が「○○に行きたい」「△△を食べたい」などの要望には耳を傾け、すぐ対応している。家族等については家族会があり、年3回集いがある。家族会等で意見や要望をいただき、できることは運営に反映させている。	運営推進会議に多数の家族や利用者の参加を頂き、家族会も定期的に開催しています。また、普段の来訪時にも何でも相談できる関係を築いています。毎月の「お便り」の中でも利用者の近況を詳しく知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとのミーティングや主任会議でスタッフの意見を聞き、反映させている。 中断してしまったが、運営者が直接職員と話をする「個人面談」があり、意見や提案を聞く機会を設けている。 必要なことは運営に反映させている。	毎月行われるカンファレンスの中で、ユニット毎に運営に関することも話し合っており、職員同士お互いに意見を言いやすい関係を築いています。管理者は、必要に応じて職員と個別に面談する場を作っています。各職員は、研修や行事、親睦会、カレンダー作りなど、役割を分担し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は主任から勤務状況を把握したり、個人面談などを通して職員の目標ややりたいことなどを実現できるようにしている。資格取得のための案内や研修会など参加しやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修ではキャリア別の研修などその職員にあった研修を行っている。 外部の研修についても強化したいところの研修を勧めている。 新人についてはOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等で、同区の管理者同士で交流してもいいと承諾は得ているが、なかなか実行されていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ入居前の様子を本人、家族等から把握し、本人が安心する、急激な変化はないように、できることは奪わないなどを心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から、家族等が困っていること、不安なことに耳を傾け、要望があればできるだけ応えられるようにしている。家族の気持ちをできるだけ汲み取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、担当のケアマネジャーと連絡を取り合ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように、支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。レクリエーションや雑巾縫いなど職員と一緒にできる事を見つけ共に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが少しずつ重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなってきている。行事などで家族の方にも参加してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から週1回通っていた「御詠歌」を入居後も継続するなど、一人一人の生活習慣を尊重している。幼なじみの来訪で昔をなつかしく思い出されたりしており、継続的な交流ができるように働きかけている。	知人や友人が来訪している利用者もおり、昔から続いていた「御詠歌」の継続を支援している方もいます。老人クラブへの出席や、利用者の希望する美容室の利用、昔、通っていたスーパーへの買い物など、個別の外出支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持たすようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。気の合う利用者同士を同じテーブルにしたり、全員で楽しめるゲームをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族との交流のため「家族の集い」を年1回実施し、近況報告等など継続的な付き合いができるよう心掛けている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけたり、カンファレンス等で把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者が希望を言葉で表現できない場合でも、仕草や表情などから把握しています。基本情報シートや課題分析シートを定期的に更新し、見やすく整理し、情報を蓄積・共有しています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からこれまでの生活歴やライフスタイルを把握したり、日頃の関わりの中からその人の個性や価値観等を把握している。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活状況に合わせたお手伝いなどをしてもらい、出来ることを見極め、個人の力を把握するようにしている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ケアマネージャー、職員で月一回、利用者全員の生活見直しカンファレンスを行い介護計画の作成に活かしている。	毎月、利用者全員のカンファレンスが行われ、3ヵ月毎にモニタリングシートを作成した上で、介護計画を見直し作成しています。カンファレンスに出席できない職員の意見も事前に集約しています。日々の記録もケアプラン実行欄を設け、計画に沿って記載しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の介護記録に記載し、職員間の情報共有をしている。また、個人記録を基に介護計画を見直し、評価を実施している。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの当日の外出の要望も柔軟に答えている。利用者本人からの要望に応じ支援している。老人クラブの方々にはどんなところか来訪してもらうよう声かけしている。高齢者の多い地域なので、地域住民のニーズを前向きに模索しながら事業所として対応を検討していきたい。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるよう、運営指針会議等で警察、消防等と意見交換する機会を設けている。近隣の小中学校に手作りの雑巾を寄贈している。				
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医がかかりつけ医という方がほとんどである。定期的な診療の他、わからないことや心配事がある場合、その都度相談できる関係で、直接家族と納得のいくまで話をすることができる。	協力医によるユニット毎、隔週の往診があります。以前からのかかりつけ医等への通院は、家族に依頼していますが、職員も同行して情報を共有しています。受診内容は「看護記録」に記載し、必要に応じて家族に連絡しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員が出勤していない場合も24時間携帯電話で連絡がとれる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を「介護添書」として医療機関に提供し、できるだけ頻繁に職員や利用者が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等把握し、早期退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、家族・医師・事業所、看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	利用開始時に「重度化に対応した医療連携体制の指針」を説明し、書類を取り交わしています。重度化した場合は、できる範囲で対応する方針です。看取りの経験もあり、ターミナルケアに関する研修も行っていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、年1回の緊急時対応の勉強会（実技を含む）を実施し、体験・体得・習得するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議等で協力を呼び掛けている。 また、「地震の時の避難・注意事項」ということで、消防署の方から説明、指導を受けた。	消防署の協力を頂き、年2回の夜間を想定した避難訓練を実施しており、地域の方々が訓練に参加したり、通報装置の連絡先に加わっています。職員の救急救命訓練の受講も行われ、災害時に必要な備品も本社で用意しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた声のかけ方に注意し、行っている。	利用者への呼びかけは「さん」付けとし、人格を尊重した呼びかけや対応を行っています。虐待のチェックリストや、接遇マニュアルを使って研修を行い、利用者の尊重を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間にメニューから自分の好きなものを選んでもらうなど、複数の選択肢の中から利用者が自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は一張羅などおしゃれを着るなど個々の生活習慣に合わせて支援し、行事など日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう化粧品を買いに行ったり、イトーヨーカドーやイオンで洋服を見たりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出張寿司、季節感のある献立を考えている。職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。食器洗いや食器拭きも一緒に行っている。	調理や盛り付け、食器洗いなど、利用者ができる範囲で手伝って頂いています。献立は法人共通のものですが、誕生会などには、希望を取り入れて変更しています。職員も会話しながら楽しく一緒に食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事量もその人に合わせた量にしている。咀嚼が弱い人にはおかゆにするなど個別の対応をしている。10時と15時にお茶の時間を設けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし、口腔ケアをしている。自力で出来る方や磨き残しがある方などはスタッフが介助し行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれないように配慮して対応している。	日々の記録や排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握し、利用者のプライバシーに配慮しながら、さりげなく誘導しています。タイミングよく誘導することで、オムツの使用量が多くならないよう注意しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、ヨーグルトなどの乳製品を積極的に摂取したり、体を動かすなど自然排便ができるよう取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入浴してもらっている。女性利用者で、男性を嫌がる場合は、女性職員が対応している。	毎日入浴が可能で、希望に応じて午前、午後の時間を選び、利用者それぞれが週2回以上入浴しています。入浴を拒む場合でも、上手に説明して入浴して頂いています。安心のため、同性介助や2名による介助も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来る限り、運動やレクリエーションを行い、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情を考慮して、ゆっくり休息をとれるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がいつでも把握出来るようにファイルにしている。服薬時は一人ずつ必ず飲み込むまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を見つけ、一人一人の力を発揮してもらえようお願ひし、感謝の言葉を伝えるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩、大型スーパーで買い物、外食など出かけている。歩行困難な方も車イスを持参し、出かけている。	日常的に近くの公園に散歩に出かけたり、ホーム前で日光浴をしています。大型ショッピングセンターにも車で頻繁に出かけています。系列のホームとの行き来もあります。老人クラブへの出席や、初詣、花見、遠足、温泉などの外出行事も豊富です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で少額を手元にもっている方もいる。家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時の買い物は自分で払うためにお金を渡している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望する時に電話をしたり、手紙のやり取りを支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り物を変え、季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。 好きな音楽を流したり、日差しが強い時はレースのカーテンをひいている。	温かみのある家庭的で明るい共用空間となっています。壁には利用者の習字や貼り絵の作品、行事での写真、紙芝居、季節の装飾が、たくさん飾られ、明るく賑やかです。居間の他にもソファや椅子を配置し、寛げる場所を作っています。トイレや風呂も使いやすく造られており、明るさや温度も調整されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファがあり、廊下にはたたみベンチを置いている。一人で過ごしたり、気の合った方々同士でお話したり活用している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外にも、それぞれの利用者の好みのものや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意してもらっている。 写真や使い慣れた日用品を持ってきてもらい、利用者の居心地のよさに配慮している。	居室には備えつけのダンスの他、テレビやベッドなど、利用者それぞれが、自由に馴染みの家具や備品を置き、居心地良く過ごせる場所となっています。壁にもカレンダーや家族の写真など、自由に飾り付けをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や脱衣所前、トイレ等に手すりがついており、安全確保と自立への配慮をしている。			